

事業の背景・目的

亀岡市に生息するアユモドキについては、地元住民、NPO、学識者、行政の各主体が協働して個体数調査、ラバーダム起立による産卵場所創出、中干しや落水時などの救出活動、外来魚駆除、密漁防止パトロール、普及啓発などの活動を実施している。このような取組みにより、亀岡市のアユモドキは現在まで個体群を維持しているが、個体数や生息地の拡大までは実現できていない。そこで、亀岡市のアユモドキの現在の生息状況や過去の分布状況を詳細に調査することで、アユモドキの生息・繁殖に適した環境条件を明らかにし、必要な生息環境改善を行い、個体群の回復を目指す。

事業の内容

事業① 分布状況調査(現状把握)

- ・概ね10年以内の分布状況を調査するため、文献資料やアドバイザーヒアリング等を参考に地点を選定し、捕獲調査を桂川本流4地点及び支流・水路6地点の計10地点で実施した。
- ・捕獲調査はタモ網、定置網、アユモドキトラップにより、各地点とも2回ずつ実施した。



図1. 調査方法

事業② 分布状況調査(過去の分布)

- ・概ね20～50年前程度の分布状況を資料調査や地元の方へのヒアリング等により明らかにした。
- ・得られた過去の生息地の現状について、現地踏査を行い、構造、水量、水利用状況等を記録した。また、堰等の構造物があった場合は、新たな繁殖場として再整備可能かどうかについて判断できるように、堰の構造等の情報を記録した。



図2. 現地調査

得られた成果

- ・捕獲調査では6目13科37種の魚類が確認され、桂川本流やアユモドキ繁殖地のある河川などで一般的にみられる種が多かった。
- ・これまでアユモドキが確認されたことのなかった河川において初めて個体が確認され、アユモドキの生息のポテンシャルについて重要な知見が得られた。
- ・過去の分布状況調査の結果、かつては桂川支川や水路に堰や堰板があり、亀岡盆地低地の水田周辺の至るところに陸上植物が抽水する繁殖場所があったことが推察された。また、かつては繁殖場、水路、支川、本川への移動が容易であったことも示唆された。アユモドキの主な減少要因としては、これら繁殖場の減少と水路ネットワークの分断が考えられた。また、現在の繁殖場についても、成魚の隠れ家の少なさや植生などの改善すべき課題があった。

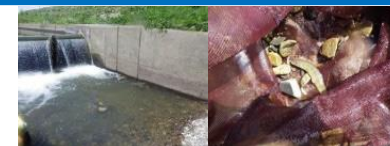


図3. 捕獲したアユモドキ



図4. 現繁殖地